

—令和2年度 高大接続研究事業—
宮城県石巻商業高等学校
石巻専修大学

高校在学中に大学の講義を受講してみませんか？



石巻専修大学の単位が修得できます！

2020（令和2）年度 石巻専修大学学事暦

(前期) 4月1日(水)～9月20日(日)

日	月	火	水	木	金	土
	3/30	3/31	1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24
	26	27	28	29	30	
月	前期授業(総授業日) 4月1日(水)～7月22日(水) オリエンテーションガイダンス 4月1日(水)～4月3日(金) ※3月30日(月)～3月31日(火)在学生ガイダンス 入学式(大学・大学院) 4月4日(土) 大学院オリエンテーションガイダンス 4月3日(金) オリエンテーションセミナー(1年次) 4月10日(金)、4月11日(土) 前期実授業(補講期間含) 4月6日(月)～7月22日(水) 授業実施日 4月29日(水)					
日	月	火	水	木	金	土
5					1	2
	③	④	⑤	⑥	7	8
	10	11	12	13	14	15
月	17	18	19	20	21	22
	24	25	26	27	28	29
	31					
日	月	火	水	木	金	土
6		1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19
月	21	22	23	24	25	26
	28	29	30			
日	月	火	水	木	金	土
7			1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	⑳	㉑
月	26	27	28	29	30	㉓
	夏期休暇 7月23日(木)～9月19日(土) 地域貢献日 7月31日(金)、8月1日(土)					
日	月	火	水	木	金	土
8						1
	2	3	4	5	6	7
	9	⑩	11	12	13	14
	16	17	18	19	20	21
月	23	24	25	26	27	28
	30	31				
日	月	火	水	木	金	土
9		1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11
	13	14	15	⑯	17	18
	20	㉑	㉒	23	24	25
月	27	28	29	30		
	大学創立記念日(休日) 9月16日(水) オリエンテーションガイダンス 9月23日(水)～9月24日(木)					

(後期) 9月21日(月)～3月31日(水)

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
10	4	5	6	7	8	9
	11	12	13	14	15	16
	18	19	20	21	22	23
	25	26	27	28	29	30
月	後期授業(総授業日) 9月23日(水)～2月2日(火) 後期実授業(補講期間含) 9月25日(金)～2月2日(火) 大学祭 10月10日(土)、10月11日(日)					
日	月	火	水	木	金	土
11			③	4	5	6
	8	9	10	11	12	13
	15	16	17	18	19	20
	22	㉓	24	25	26	27
月	29	30				
	授業実施日 11月23日(月)					
日	月	火	水	木	金	土
12			1	2	3	4
	6	7	8	9	10	11
	13	14	15	16	17	18
	20	21	22	23	24	25
月	27	28	29	30	31	
	冬期休暇 12月24日(木)～1月6日(水)					
日	月	火	水	木	金	土
1					①	2
	③	4	5	6	7	8
	10	⑪	12	13	14	15
	17	18	19	20	21	22
	24	25	26	27	28	29
月	31					
	センター試験 1月16日(土)、17日(日) 後期補講期間 1月27日(水)～2月2日(火)					
日	月	火	水	木	金	土
2		1	2	3	4	5
	7	8	9	10	⑫	12
	14	15	16	17	18	19
	21	22	㉓	24	25	26
月	28					
	春期休暇 2月3日(水)～3月31日(水)					
日	月	火	水	木	金	土
3		1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	㉔
月	28	29	30	31		
	学位記授与式 3月20日(土)					

※注意点
前期の初回授業は4月6日(月)からスタート

※注意点
後期の初回授業は9月25日(金)からスタート

○：授業を実施しない休日(国民の祝日に関する法律で定められた休日、振替休日及び大学創立記念日)

___：国民の祝日に関する法律で定められた休日であるが授業を実施

□：地域貢献日(原則、授業は実施しない)

高大接続事業の目的

石巻専修大学では、高校生に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、高校生の個々の能力・適性の伸長をはかるとともに、大学に対する理解を深めてもらい、大学では地域貢献活動の一環として高校と大学による交流事業を実施しています。さらに、魅力ある高等学校教育及び大学教育の実現と地域の教育・文化の再生に資することを目的としています。

単位認定科目の提供について

1 開講授業

科目名	時間割	担当教員	単位数
情報活用法 I	前期/水曜 5 限	渡邊 壽大	2 単位
心理学-心の科学-	前期/水曜 5 限	佐藤 誠子	2 単位
復興ボランティア学	前期/火曜 5 限	山崎 泰央	2 単位
地域と政策	後期/火曜 5 限	横江 信一	2 単位
商業簿記	後期/月曜 5・水曜 5	田村 真介	4 単位

2 対象生徒

- (1) 受講できる高等学校の学年は全学年を対象とするが、原則として 2・3 学年が望ましい。
- (2) 大学における授業のため、学力等に問題がなくかつ進路意識が明確なもの。
- (3) 願書等を審査の上、高等学校長・大学長より受講許可を認められたもの。

※ 進学・就職の進路希望、石巻専修大学入学希望を問いません。

※ 受講にあたっては、本人および保護者から願書を提出する必要があります。

3 評価

受講生に対し、大学生と同様にレポートの提出や試験等を課して総合的に評価を行います。高等学校においては評価を行わないこととします。

可否の判定	評価（評価点）	摘 要
合格	S (90～100 点)	きわめて優秀な水準に達している
	A (80～89 点)	優れた水準に達している
	B (70～79 点)	ねらい通りの水準に達している
	C (60～69 点)	合格に足る水準に達している
不合格	F (0～59 点)	合格に足る水準に達していない

成績および単位認定結果の連絡は大学から高校へ、高校から生徒へ伝えます。単位の認定は、科目担当教員が行い大学長名の単位認定証を発行します。

4 経費

受講料は徴収されません（免除）。ただし、受講に関する経費（教科書、資料費、実験実習費）については、受講生負担となります。また、大学への移動の交通費も受講生負担となります。

5 身分

石巻専修大学において、科目等履修生（高大接続研究生）としての身分を設け、身分証が発行します。身分証を提示することで学内への入校および受講が許可されます。その際、一般学生と同様に施設を利用することができます。

※受講生の施設利用については、大学学則および諸規定を準用します。

6 授業時間

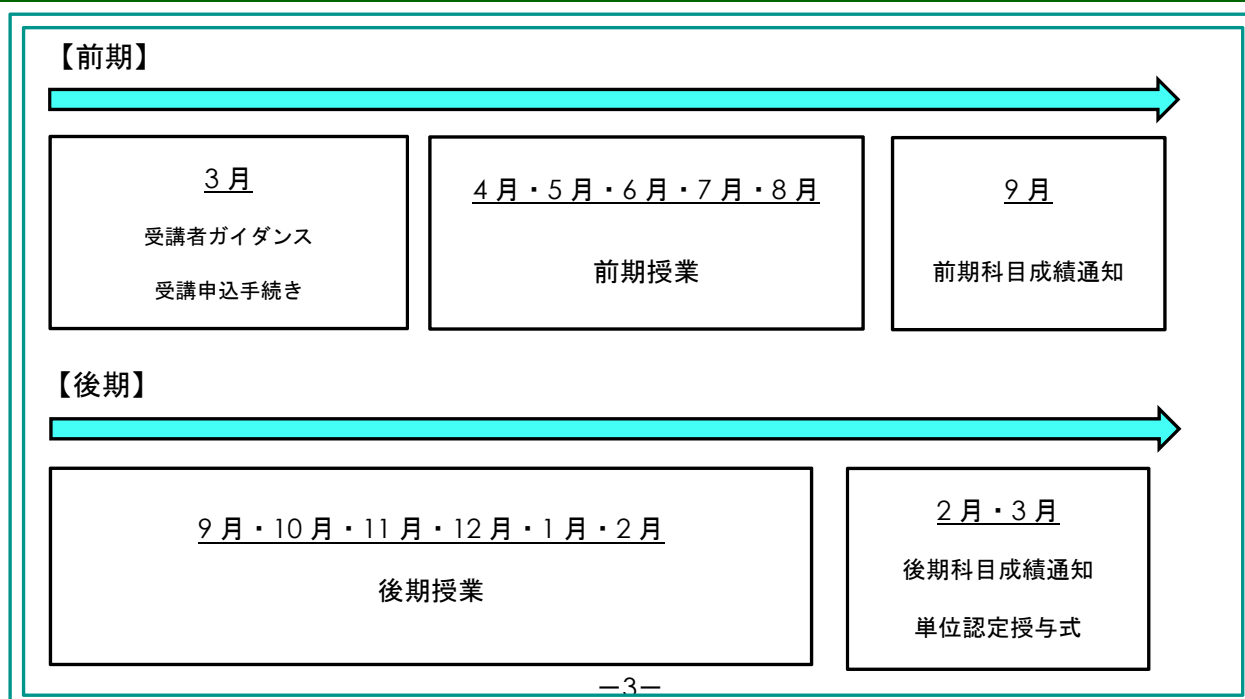
石巻専修大学の授業時間区分は次のとおりです。

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
9 : 40～11 : 10	11 : 20～12 : 50	13 : 30～15 : 00	15 : 10～16 : 40	16 : 50～18 : 20

7 注意事項

- (1) 大学構内における受講生の事故等については、大学には責任がないものとされ、受講生および保護者の個人責任となります。
- (2) 受講生において重大なる過失もしくは問題が生じた場合には、受講等をただちに停止するなど、双方で協議の上適切な対応をとります。
- (3) 学事日程は大学学事暦のとおり実施します。したがって、高校の行事（定期考査含む）は基本的に配慮されません。また、部活動においても同様に配慮できません。ただし、高校総体のような高校外での行事については、別途配慮します。
- (4) 講義欠席の場合は、石巻専修大学事務課教育支援係まで連絡を行ってください。
- (5) 常に高校代表生徒であることを意識し、大学において石巻専修大学科目等履修生（高大接続研究生）であることを自覚し行動してください。

受講手続きについて（スケジュール）



提供科目について（シラバス）

科目名・単位数	心理学—心の科学—（2単位）
担当教員	人間学部 助教 佐藤 誠子
開講期・曜日・時限	前期・水曜・5限
講義内容	<p><授業概要> 本講義では、心理学の主要な領域における理論や概念を理解し、科学としての心理学の基礎的な考え方を習得することを目的とする。講義では、主に人間の「心」の主要な機能・態様・変容としての発達・感覚・知覚・学習・思考などの領域を中心に、それぞれの領域で提唱されている理論や研究結果について紹介するとともに、受講生みずから「心」について考える機会を提供する。</p> <p><到達目標> テーマ：実証科学としての心理学を理解する 到達目標：これまで受講生自身が抱えてきた「心理学」のイメージを明確にした上で、それらを批判的に捉え、実証科学としての心理学とはどのようなものか、自分の言葉で説明できる。人間の「心」について、発達・感覚・知覚・学習・思考等の側面から具体的に理解する。</p> <p><授業計画> 1. 心理学で学ぶこと（イントロダクション） 2. 心の進化：ヒトから人へ 「心」の側面からみた人間らしさとは 3. 人間の発達（1）：乳幼児期～児童期の認知発達 4. 人間の発達（2）：乳幼児期～児童期の社会性の発達 5. 人間の発達（3）：青年期の発達課題 アイデンティティ論 6. 感覚：情報をうけとるしくみ 7. 知覚：見えているものは本当か 8. 記憶：覚えることと忘れること 9. 学習（1）：行動の変化としての学習（条件づけ） 10. 学習（2）：観察による学習 11. 思考（1）：問題解決 12. 思考（2）：知識と推論 13. 思考（3）：問題が解けない・わからないのはどうしてか 14. 動機づけ：「やる気」について 15. まとめ 授業内テスト</p> <p><アクティブラーニングの取り入れ状況> 毎回コメントペーパーにより意見や質問、新たな疑問を提出してもらう。 また、授業内容に応じて、実際に心理学実験を体験したり課題を解いたりする活動がある。</p> <p><授業形態> 毎回レジュメを配付し、板書を中心とした講義形式により進める。内容によってパワーポイントやDVDを活用する。また、受講生の理解を深めるため、心理学実験やアンケートを適宜取り入れる予定である。毎回コメントペーパーに授業の感想や質問等の記入・提出を求める。</p> <p><課題に対するフィードバック方法> 毎回授業前にコメントペーパーの感想や質問をピックアップして回答し、補足や解説をおこなう。</p>
教科書・参考書	<p><教科書> 指定しない。事前もしくは授業中に配付する資料プリントをテキストとして使用する。</p> <p><参考書等> 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（2008）はじめて出会う心理学 改訂版 有斐閣アルマ 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（2004）心理学 有斐閣</p>
成績評価方法・基準	<p>【成績の配分】 中間レポート（30%）、期末試験（70%）から総合的に判断する。総合評価で60点以上を合格とする。</p> <p>【評価基準】 心理学の主要な領域における理論や概念について、具体例を挙げながら自分の言葉で説明できること。</p>
注意点	<p><準備学習> 事前に配布される資料に目を通し、講義の内容について大方把握しておく。その際、理解できない箇所や疑問点を明確にしておく（1時間）。</p> <p><事後学習> 講義内容を自分の言葉でまとめる。その内容を踏まえ、新たに質問を挙げる。それに対する自分なりの答えを持つべく次回の授業までに情報収集する（3時間）。なお、質問は毎回のコメントペーパーにて受けつけ、次回の授業の際に適宜紹介し回答する。</p>

科目名・単位数	商業簿記（４単位）
担当教員	経営学部 准教授 田村 真介
開講期・曜日・時限	後期・月曜５限と水曜５限
講義内容	<p><授業概要> 商業簿記では、複式簿記についての基礎的な素養を身に付けていることを前提に、商業（小売・卸売）における諸取引の記帳、試算表の作成方法、決算整理の仕方、損益計算書・貸借対照表の作成方法、帳簿組織等を説明する。本授業は日商簿記３級の範囲を学習する。</p> <p><到達目標> 個人企業のより複雑な取引事象について簿記処理を行うことができる。決算整理をした上での損益計算書・貸借対照表の作成に至る手続きを行うことができる。</p> <p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと簿記の基礎 2. 簿記一巡と財務諸表 3. 商品売買（１） 掛け・手付金等 4. 商品売買（２） 返品・値引き等 5. 商品売買の仕訳演習その１ 6. 商品売買（３） 当座取引 7. 商品売買（４） 手形 8. 商品売買の仕訳演習その２ 9. その他の取引（１） 貸付け・借入れ等 10. その他の取引（２） 商品券、給料等 11. その他の取引の仕訳演習その１ 12. その他の取引（３） 有価証券、固定資産等 13. その他の取引（４） 個人企業の資本等 14. その他の取引の仕訳演習その２ 15. 授業内テストと中間総括（復習授業 30分+テスト 60分） 16. 試算表の作成（１） 合計残高試算表 17. 試算表の作成（２） 合計試算表 18. 試算表の作成演習 19. 決算整理（１） 現金過不足等 20. 決算整理（２） 貯蔵品、売上原価 21. 決算整理演習その１ 22. 決算整理（３） 貸倒れ、減価償却 23. 決算整理（４） 繰延べ・見越し 24. 決算整理演習その２ 25. 精算表の作成（１） 基本構造の理解 26. 精算表の作成（２） 作成の手続き 27. 精算表の作成演習 28. 勘定の締め切り 29. 損益計算書と貸借対照表の作成 30. 授業内テストと最終総括（復習授業 30分+テスト 60分） <p>なお、上記の授業計画に変更がある場合には授業中に連絡します。</p> <p><アクティブラーニング> 確認テストを授業時間内に行う（全３回程度） 第１６回の授業時に学習内容のまとめとして、グループワークを行う（全１回）</p> <p><授業形態> 板書、パワーポイント、配布印刷物等を活用しながら内容の説明を講義形式で進めるとともに、説明後に問題演習に取り組む。配布印刷物を用いて方法を説明したのち、グループワークを行う。</p> <p><課題に対するフィードバック方法> フィードバックとして確認テストを回収後、解答の解説を行う。</p>
教科書・参考書	<p><教科書> TAC 簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記３級』TAC 出版</p> <p><参考書等> TAC 簿記検定講座著『合格トレーニング日商簿記３級』TAC 出版</p>
成績評価方法・基準	<p>(1) 試験・テストについて 授業 15 回目と 30 回目に授業内テストを実施、随時確認テストを実施</p> <p>(2) 試験以外の評価方法 授業への貢献度</p> <p>(3) 成績の配分・評価基準等 授業内テストに加え、確認テストと授業への貢献度を総合的に判断し評価する。 (15 回目授業内テスト 30%、30 回目授業内テスト 50%、確認テスト 10%、授業への貢献度 10%) 授業内テスト：講義で得た知識と技術をもとに、簿記処理能力と会計情報の作成力を見る。 確認テスト：授業の進度に合わせて、知識・技術の定着度合を見る。 授業への貢献度：参加の意欲や質問などの主体的な姿勢を見る。</p>

注意点	<p><事前学習> 教科書に目を通して、分からない点を明らかにしておき、その点を講義時に解消しようとする体勢づくりをしておこう。(2時間)</p> <p><事後学習> 練習問題を数多くこなし、商業簿記の理解を深めよう。(2時間)</p> <p><科目の位置づけと他科目との関連> 簿記基礎で学習した複式簿記について、商業簿記では、より複雑な取引事象のもとに学ぶ。商業簿記は、将来広く会計学を学ぶために不可欠であると同時に、経営学部で学ぶ学問の基礎領域を形成している。</p>
-----	---

科目名・単位数	復興ボランティア学(2単位)
担当教員	経営学部 教授 山崎 泰央
開講期・曜日・時限	前期・火曜・5限
講義内容	<p><授業概要> 東日本大震災で最も大きな被害を受けた石巻市には、発災直後より多くの災害ボランティアが集まってきました。石巻専修大学には個人・団体を問わず、全国から災害ボランティアが集い、災害復旧の拠点になっていました。</p> <p>大学には「災害ボランティアセンター」が石巻社会福祉協議会によって設置されました。同センターは被災者からのニーズに応じて個人ボランティアの派遣を行っていました。また、ボランティア団体は「災害ボランティアセンター」を経由せず、自分たちでニーズを見つけて復旧活動に取り組んでいました。最初は両者とも違う取り組みとしてスタートしたのですが、やがて災害復旧活動・被災者支援活動の調整や役割分担などを目的に協議会を結成しました。協議会は、毎日活動終了後に石巻専修大学の施設内で連絡会議を開催し、被災者のニーズや復旧状況などを団体間で共有しながら、翌日の活動分担などを話し合っていました。この連絡会には、石巻の被災情報が集まることから、行政や消防、自衛隊なども参加するようになり、ついには「石巻モデル」と呼ばれる災害復旧体制ができたのです。</p> <p>そして、震災から3年目の2013年。避難所の解消や復旧の進展によって、ボランティア団体やボランティアリーダーたちの撤退が目立ってきました。そこで、私たちは東北の被災地にある唯一の大学の役割として「復興ボランティア学」を開講し、災害ボランティアの足跡を残すことにしたのです。その後5年目からは復興状況に応じて、震災後に発生した地域課題の解決に取り組むボランティア団体や企業のリーダーを講師に招いて講座を開催しています。</p> <p>私たちが学ぶ石巻専修大学は被災地に立地する唯一の大学です。しかも、東日本大震災直後から災害復旧の拠点ともなっていました。このような大学で学ぶ学生として、災害復旧および復興を学ぶことは意義のあることです。そのような背景もあって、本講義は、経営学部山崎ゼミの学生が主体となって運営しています。皆さんと同じ学生が、半年かけて講師の手配、進行シナリオづくり、EXPOの運営などを準備し、この講座を作り上げてきました。したがって、受講生はタダ話を聞いているだけでなく、講師や運営の学生の姿勢から課題解決の方法を学び、それを使って地域活動に主体的・積極的に関わることを期待しています。</p> <p>授業では他者の学びを共有することで、自己の思考を深めることを目的にグループワークを行います。グループはランダムに編成するので、他者との関係づくりも学んでください。グループ編成は第2回(4月14日)に実施するので無断欠席者は失格となります。さらに第9回にもグループ替えをします。この回でも無断欠席は失格となるので注意してください。</p> <p>また、この授業では、7月18日(土)に15回目の授業として「復興ボランティア学 EXPO 2019」を実施します。15回目は期末評価として実施する行事なので、欠席した場合は失格となります。事前に予定をよく確認してください。なお、毎年、通学支援バス利用者へ配慮して、事前申込み制でバスの運行を行っています。本年度も一般市民に無料開放します。本学学生として恥ずかしくない態度をとるように心がけてください。</p> <p><到達目標></p> <p>この講義では以下の3点を目的に開講しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 石巻で活躍している復興支援団体の実態を学ぶこと (2) 復興支援の実績・足跡を記録として残すこと (3) 復興支援団体の活躍を学ぶだけでなく受講生が復興のために行動すること <p>上記の目的を達成するために、以下の達成目標を設定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 震災被害や被災者の現状を知ること、震災の教訓を他人に伝えることができるようになる。 (2) 地域の復興に問題意識を持ち、自分から進んで復興に貢献しようという意欲を持つ。 (3) ボランティア活動に参加し地域に貢献できるようになる。

	<p><授業計画> 2020年1月現在の登壇予定団体です。 登壇団体と順番は変更になることもあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 復興ボランティア学とは (2) グループ分け、チームビルディング (3) 石巻市社会福祉協議会（阿部 由紀） (4) HOYAPAI（太田 和美） (5) にじいろクレヨン（柴田 滋紀） (6) チーム王冠（伊藤 健哉） (7) 3.11メモリアルネットワーク（武田 真一） (8) 荒浜のめぐみキッチン（小山田 陽） (9) グループワーク (10) ビヨンド（齊野 浩一） (11) プレイワーカーズ（須永 力） (12) あしなが育英会（菅野 宏彦） (13) 3.11 未来サポート（未定） (14) グループワーク (15) 「復興ボランティア学 EXPO 2019」（7月18日 10:00～16:00） 午前：登壇団体を中心としたアクティビティ 午後：「復興ボランティア学ワークショップ」 <p>※登壇者・団体は変更の可能性もあります。変更の場合はC-Learningで連絡をします。</p> <p>毎時間グループでその日の講座に関する質問やまとめを行います。 第15回目は土曜日に開催し、アクティビティとワークショップを実施します。</p> <p><授業形態> 外部講師の話聞いて、グループで講座のまとめや質問を考えます。</p> <p><課題に対するフィードバック> 授業で提出レポートに関する講評をおこないます。レポートは評価をつけて返却します。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：特に指定はありません 参考書：特に指定はありません</p>
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> (1) 成績評価方法 毎回の小レポート、グループ課題、EXPO参加レポート。 (2) 成績評価基準 小レポート（70%） グループ課題（10%） EXPO参加レポート（20%）※提出なき場合は失格となります。 小レポート：毎回の講義の最後に小レポートを課します。 「事実→解釈→行動・要約」のフレームに沿って書かれていれば得点となります。 毎年「事実」と「解釈」を切り分けられない学生が多くいるので気をつけてください。 グループ課題：グループで課題について報告をまとめて発表します。 発表内容について、他のグループが3段階で評価します。 EXPO参加レポート：EXPOの受付時にレポート課題を出し、時間中にレポートを集めます。 授業を通じて自己の視点の変化を客観視できているかを基準とします。
注意点	<p><準備授業> 講師の所属する団体や活動に関して事前にネットで調べてノートにまとめておく。（120分）</p> <p><事後学習> 講師の話から時系列で活動をまとめる。返却された小レポートを見直す（120分）</p> <p><履修に関する連絡について> ・出席確認は「C-Learning」を使用します。使用方法や登録方法については初回の授業でお知らせします。 ・シラバスの授業計画の変更などの重要事項および履修上の連絡事項だけでなく、課題提出や資料の共有など授業の関連情報は、すべて「C-Learning」をつかって連絡をします。 ・授業期間中はC-Learningを確認してください。</p> <p><出席に関する留意事項> ・欠席が3回超えた場合は失格となります。 ・担当教員の許可を得ることなく、復興ボランティア学 EXPO を欠席した場合、失格となります。</p> <p><科目の位置づけと他科目との関連> 石巻の復興の現場にいるリーダーたちから直接話を聞けるまたとない機会です。 いしのまき学（全学必修）、ボランティア論（経営学部必修）、復興の社会学（人間学部必修）について、事象面での裏付けを取るのに最適な科目となっています。</p>

科目名・単位数	情報活用法Ⅰ（2単位）
担当教員	渡邊 壽大
開講期・曜日・時限	前期・水曜・5限
講義内容	<p><授業概要> 現在、コンピュータやインターネットは生活や仕事に欠かせないものとなっている。本講義では、これからの講義や演習を履修していく上で不可欠なコンピュータの利用技法を学ぶ。具体的には、アプリケーションソフトを利用して、文書作成とプレゼンテーションを学ぶ。</p> <p><到達目標> 「アプリケーションを利用できる。コンピュータの仕組みを理解できる。これらを通じてコンピュータ社会に関わる諸問題解決のための基礎的素養を習得できる」ことを目標とする。</p> <p><授業計画> （１）ガイダンス、コンピュータの基本操作、インターネット利用上の注意について （２）Microsoft Word：Wordの基本操作を理解しよう （３）Microsoft Word：テキストデザインをしよう （４）Microsoft Word：チラシデザインをしよう （５）Microsoft Word：ポスターデザインをしよう （６）Microsoft Word：段組みデザインをしよう （７）Microsoft Word：ラベルデザインをしよう （８）Microsoft PowerPoint：PowerPointについて （９）Microsoft PowerPoint：スライドを作ろう （１０）Microsoft PowerPoint：スライドをデザインしよう （１１）Microsoft PowerPoint：スライドを実行しよう （１２）Microsoft PowerPoint：スライドの表現力を高めよう （１３）Microsoft PowerPoint：プレゼンテーション資料を作ろう （１４）最終評価（Wordのテスト30点+PowerPointの課題レポート30点+授業への貢献度40点） （１５）総まとめ</p> <p><アクティブラーニングの取り入れ状況> （２）～（１３）が、実技を伴うアクティブラーニング（全12回）である。</p> <p>[授業の方法] <授業形態> Microsoft Word および Microsoft PowerPoint の課題演習を行う。「講義・演習」形式である。</p> <p><課題に対するフィードバックの方法> 14・15回目の授業で、テスト・課題の返却・解説を行う。</p>
教科書・参考書	<p><教科書> 定平誠、 『例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10/Office2019 対応版』、 技術評論社、2019、定価（本体1,980円+税）</p> <p><参考書> 特になし。</p>
成績評価方法・基準	成績評価方法・基準 Microsoft Word のテスト（30点）、Microsoft PowerPoint の課題レポート（30点）、授業への貢献度（40点）にて総合評価する。出席者に発言を求めることもある。
注意点	<p><準備学習> 事前学習 毎回の受講前にあらかじめ教科書を読んでおくこと。（150分） 事後学習 課題を解くことによって自分の理解度をチェックできるので、遅れは次回までに取り戻しておくこと。毎回の授業の積み重ねが大切であるため、理解できないところや遅れ等をそのままにしないこと。（90分） なお、Microsoft Excel については、1年次前期の「情報活用法Ⅱ」（必修科目）で学習する。</p> <p><科目の位置づけと他科目との関連> 本講義は、諸君が高校までに学習したコンピュータスキルに積み上げる形で講義内容を設定したいと考えている。しかし、受講生の学習歴は異なるため、講義初めに状況を聴取し、必要なら個別に学習方法などをアドバイスし、自学してもらうこともある。コンピュータスキルは専門分野を問わず今後履修する科目で必要になることが多いので、1年次のうちに確実に習得すること。 なお、この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの中にある「情報収集力と情報発信力」を達成するための科目である。</p>

科目名・単位数	地域と政策
担当教員	横江 信一
開講期・曜日・時限	後期・火曜・5限
講義内容	<p><授業概要> 分権改革後の自治体は、自治体運営の主体としての責任が大きくなり、都道府県、市町村を問わず、それぞれの自治体は、地方制度の枠組みのなかで、自らがもつさまざまな資源を活用しつつ住民の求める政策を展開することになった。この講義では、学外から招いた自治体職員等地方行政に携わっている実務家を中心とした講師陣が、政策主体としての自治体という観点から、制度、政策など自治体が当面する課題について論ずるとともに、近年顕著となってきたコミュニティ論に立脚した自治と地域社会の在り方についても取り上げ、地域コミュニティの変遷とコミュニティ理論について概観したうえで、まちづくりに当たって必要とされる地域住民と自治体の連携について理解する。</p> <p><到達目標> テーマ：地域政策の現状把握と課題追求からまちづくりを展望する。 到達目標：行政担当者による施策の解説を通して、地域政策の方法と現状を把握し、まちづくりに必要とされる地域住民と自治体の連携の在り方について理解することができる。</p> <p><授業計画> (1) 講義の概要説明、序論—地域政策をどう理解するか (2) 石巻市の施政方針（石巻市） (3) 地域コミュニティ再生と復興まちづくりの事例（石巻市） ・復興事業におけるまちづくりについて (4) 産業観光政策の事例（石巻市） ・石巻市の観光政策について (5) 地域防災の取組事例について（石巻市） ・災害時の避難所運営 (6) 地域の課題解決に向けて、本論—地域政策からみえる課題をどう解決するか (7) 東松島市の施政方針（東松島市） (8) 持続可能な開発目標（SDGs）の事例（東松島市） ・東松島市の具体的な政策について (9) 教育・文化政策の事例（東松島市） ・東松島市のコミュニティ・スクール事業について ・文化財保護事業について (10) 社会保障・社会福祉政策の事例（東松島市） ・地域福祉計画について ・障害福祉計画について ・子ども・子育て支援事業計画について (11) 女川町の施政方針（女川町） (12) 医療・保健政策の事例（女川町） ・地域包括ケアシステム推進について (13) 地域コミュニティ再生と復興まちづくりの事例（女川町） ・移住、定住に向けた取り組みについて (14) 安全・安心なまちづくりの事例（女川町） ・女川町の防災、減災対策について (15) 全体のまとめ、結論—地域政策を未来にどうつなぐか</p> <p><アクティブラーニング取り入れ状況> グループ討議と全体発表を行う。グループワークとプレゼンテーションによるまとめを行う。</p> <p>[授業の方法] <授業の形態> 配布資料、パワーポイントを使用しながら行政担当者による基調講話（30分を基に、グループディスカッションと組み合わせたグループワークによる演習を行う。授業計画通りに実施する予定にしているが、石巻市役所、東松島市役所、女川町役場の担当職員が講義を行うため、人事異動等から多少の変更が予想される。決定次第、内容については授業で使用する資料は教員が用意する。</p> <p><課題に対するフィードバック方法> 基調講話を聞きながらメモを取り、グループ討議によって自分自身の考えを小レポート（振り返りシート）にまとめ、回収する。小レポート（振り返りシート）の回収後コメントを記入して返却する。</p>
教科書・参考書	<p><教科書>：使用しない。 <参考書等>：授業で紹介する。</p>
成績評価方法・基準	<p><評価方法> (1) 試験・テストについて 試験は実施しない。 (2) 試験以外の評価方法 授業中に小レポート（振り返りシート）を作成する。（全12回） 課題レポートを時間内に行う。（1回） (3) 成績の配分</p>

	<p>【績評価基準】</p> <p>成績区分は、Sが100～90点、Aが89～80点、Bが79～70点、Cが69～60点、59点以下を不合格とする。出席を重視し、評価は授業への貢献度(60%)、授業中の小レポート(10%)と最終課題レポート(30%)であり、レポートや発表および平常の学習状況により総合的に評価する。講義を欠席した(する)学生は必ず理由を明示した欠席届を提出すること。欠席理由により、配慮することもある。</p>
<p>注意点</p>	<p><事前学習・事後学習></p> <p>事前学習：石巻地域は東日本大震災からの復興過程である。新聞等には復興に関する記事が多々掲載されているので、特に注意を払ってほしい。また、授業の前には石巻市役所、東松島市役所、女川町役場(各部・各課)の仕事の内容をホームページで調べておくこと。(2時間)</p> <p>事後学習：日頃から日常生活や社会に関する問題や課題、社会の動きについて情報収集を行うことが望ましい。(2時間)</p> <p><科目の位置づけと他科目との関連></p> <p>地域の行政施策を理解する上でいしのみき学、地域産業論、地域経営論と相互に関連する科目なので、これら3科目とも履修することが望ましい。</p>
<p>その他</p>	<p>授業内容に関する質問は、授業中及び授業終了時に随時受け付ける。</p> <p><オフィスアワー>相談は随時受け付ける。</p> <p>(実務経験のある教員による授業)</p> <p>圏域行政等の課題に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。</p>

高大接続研究事業化以降科目履修生 願書（記入例）

高大接続研究事業開講科目履修生 願書

石巻専修大学
学 長 殿

私は、高大接続研究事業の協定に基づき、以下のとおり科目の履修を希望します。

【本人情報】

ふりがな	いしのまき たろう		<写真添付欄> 1. 正面上半身 脱帽、背景無地 2. 三ヶ月以内撮影 3. 縦 4cm、横 3cm <small>※裏面に氏名を記入してください。</small>	男・女
氏 名	石巻 太郎			
生 年 月 日	平成 13 年 4 月 1 日 (17 歳)			
高 等 学 校 名	宮城県石巻商業高等学校			
所 属 科	総合ビジネス科			
高 等 学 校 入 学 年 度	平成 29 年 4 月 入学 (学 年 : 3 年)			
連 絡 先 (本 人)	〒986-8580 住 所 : 宮城県石巻市南境新水戸1番地			
	電 話 : 0225-22-7714			
	携 帯 : 090-0000-0000			
	E-mail : ishikomaki@senshu.jp			
連 絡 先 (保 証 人)	氏 名 : 石巻 専太郎			
	電 話 : 0225-22-7714			
	携 帯 : 090-0000-0000			

【履修希望科目①】

授 業 科 目	科 目 名	心理学-心の科学-
	担 当 教 員	佐藤 誠子
	開 講 学 期	前 期
志 望 する 理 由	以前より心理学について興味を神っており、大学での履修を通じて、知識を深めたいと思い受講を希望しました。また、大学の履修の雰囲気などを体験し、自分の進路を見つめなおす機会にしたいと考えました。	

【履修希望科目②】

授 業 科 目	科 目 名	商業簿記
	担 当 教 員	田村 真介
	開 講 学 期	後 期
志 望 する 理 由	将来、経理の仕事に就きたいと考えており、高校の授業だけでなく、大学の履修を受講することで学びの幅を広げ、社会人になってからも活用できるスキルを修得したいと考え、志望しました。	

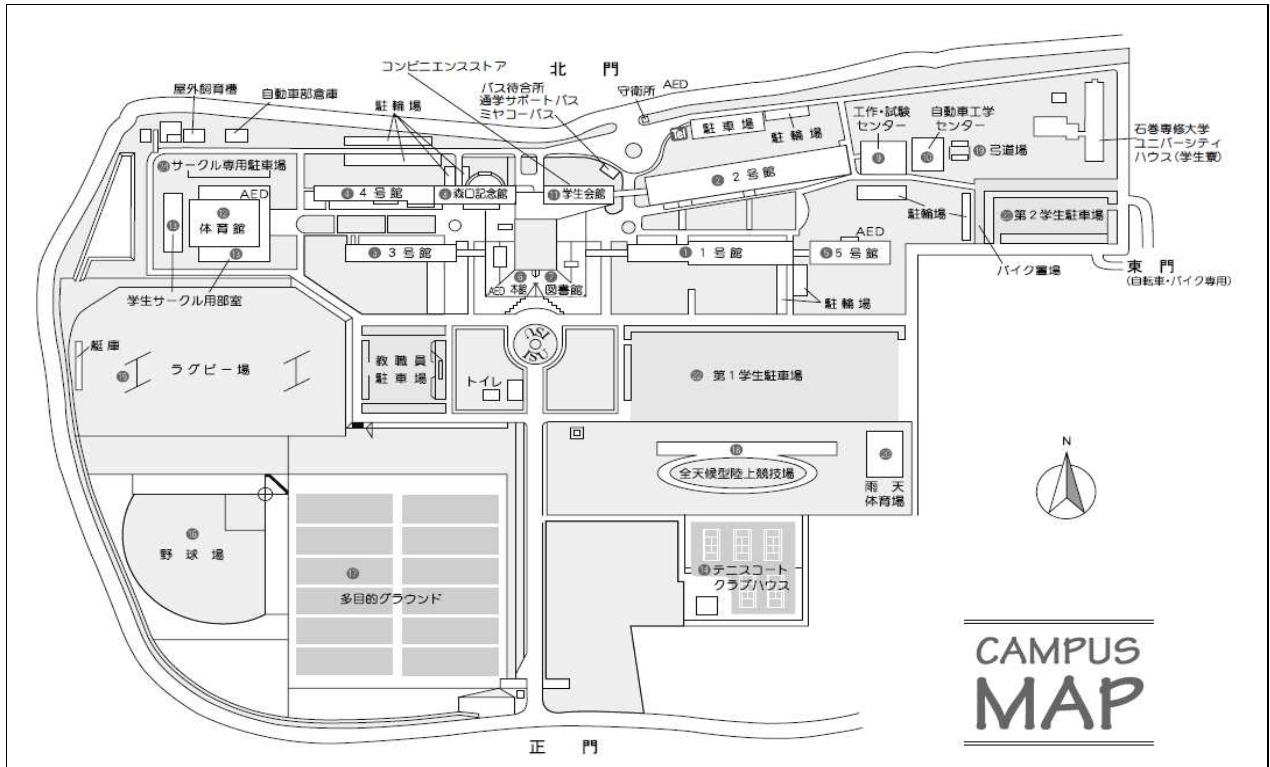
*上記の個人情報は、高大接続研究事業に関する事項以外は使用いたしません。

高 大 接 続 学 務 番 号	
--------------------	--

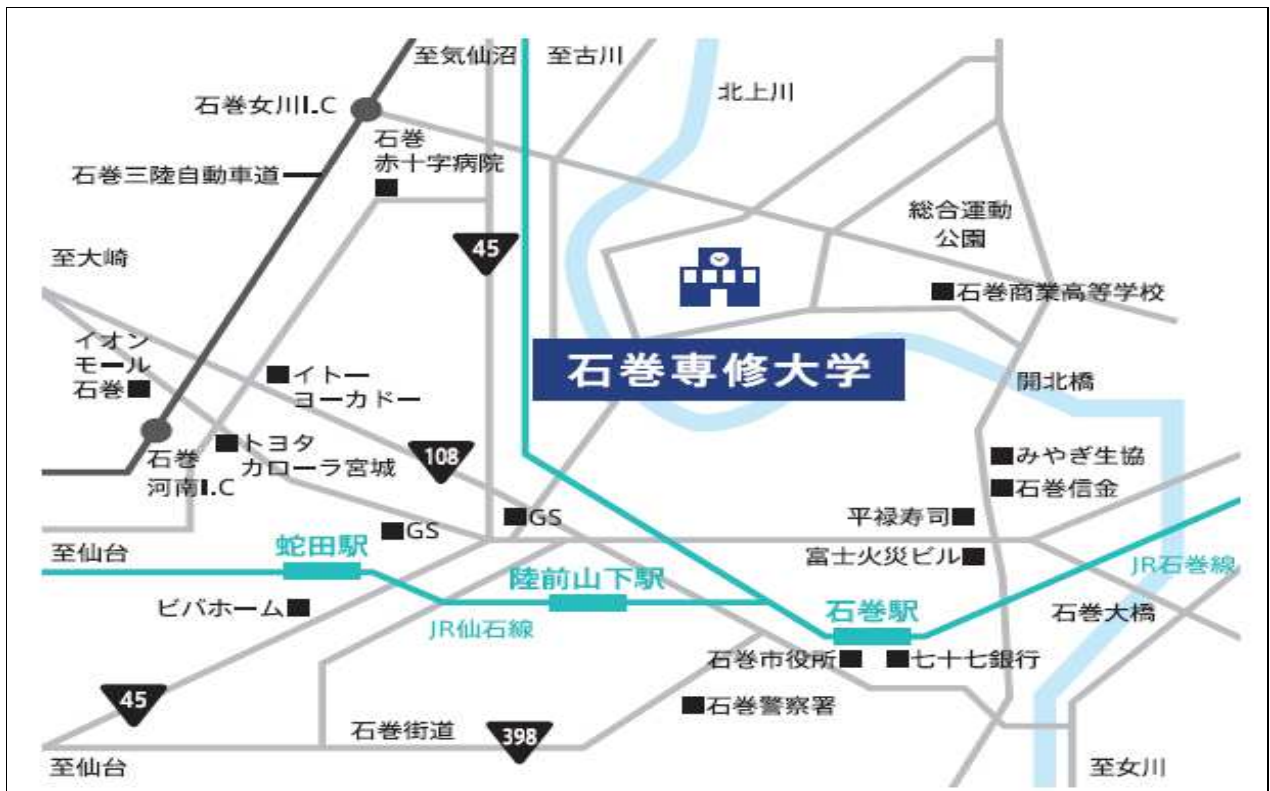
※石巻専修大学使用のため記入不要

校舎案内 (キャンパスマップ)

【学内図】



【石巻専修大学へのアクセス】



学内施設（図書館）の案内

石巻専修大学の本館の1～3階が図書館となっています。図書約17万冊と学術雑誌約2,000タイトルを所蔵しています。

開館時間	月曜日～金曜日 9:00～19:30
休館時間	休館日 土・日・祝日

【ラーニングcommons】

館内にある図書資料の利用に加え、パソコンによるデータベースやオンラインジャーナルの複合的な活用により、レポート作成や自主学習をするのに最も適した環境です。資料の探し方、データベースの利用法については、図書館スタッフにお気軽におたずねください。

